

分担研究概要

東京都立北療育園
甘楽重信

『重複障害児の家庭療育に関する研究』という課題に対し、私達の班は、手足の不自由な子を対象とし、これらの子が現在どのような扱いをうけているかを知るべく本年度の研究を施行した。

調査、研究内容は、肢体不自由児とりわけ重複障害児としての脳性麻痺と、いわゆる重症心身障害児の在宅療育に関するもので、6人の主なる研究者によって調査研究がなされた。以下その概要を論じてみたい。

主研究者と研究テーマ

- (1)『重複障害児の家庭療育に関する研究』
札幌肢体不自由児総合療育センター
高橋 武 他
- (2)『ボイタ法による在宅訓練の実態』
聖ヨゼフ整肢園
家森百合子 他
- (3)『当園通園施設療育16年間の経験』
都立北療育園
甘楽重信 他
- (4)『在宅重症心身障害児における訪問看護
・巡回相談の役割』
心身障害児総合医療療育センター
むらさき愛育園
中村博志 他
- (5)『愛知県下の重症心身障害児、特に在宅
児の実態と処遇について』
愛知県心身障害児者コロニーこぼと学園
岡田喜篤
- (6)『脳性麻痺・重症心身障害児療育指導
―通園の立場から―』
東京女子医科大学リハビリ科
山形恵子 他

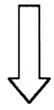
調査内容

夫々の内容については、各研究者の別添の報告を参照させていただきたい。

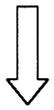
ただ、6人の主なる研究者が扱っている内容は多様であるが、手足の不自由な子どもに対する療育、特に脳性麻痺を主とする重複障害児及びいわゆる重症心身障害児のその現状と、今後どのように在宅療育に結びつけたらよいかの内容が論じられている。

本年は研究初年度なので、これら患児の在宅療育の実態をあきらかにすることは、長期間在宅療育児、とりわけ手足の不自由な子ども達の療育は、かかせぬ厚生行政の一施策であることが知れる。

これらの基礎的データとして、次年度はこれら患児のあるべき姿を模索してみたいと考える。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



「重複障害児の家庭療育に関する研究」という課題に対し、私達の班は、手足の不自由な子を対象とし、これらの子が現在どのような扱いをうけているかを知るべく本年度の研究を施行した。